

中野重治 小説家、評論家。{日本共産党}に属しながら優れた作品、除名後、その間の事情を傑作「甲乙丙丁」に著した。

なかのしげはる

教科書疑獄・1902 = 福井県坂井郡高椋村の自作農兼小地主の家に生まれる。

父が小役人で不在だったため、祖父母に育てられる。

日露戦争終・1905 = 3歳：

大逆事件判決1911 = **9歳**：

明治天皇没・1912 = 10歳：

第一次大戦始1914 = 12歳：福井中学校に入学。祖母が死去。

第一次大戦終・1919 = 17歳：金沢の四高に入学する。兄が病死したため嫡男となる。

大暴落・・・1920 = **18歳**：

原敬首相暗殺1921 = 19歳：

四高の北辰会の雑誌を編集するようになり、窪川鶴次郎らを知って、短歌、詩、小説の習作を始める。2度落第したことで、室生犀星を知り、以後親しむ。

護憲三派圧勝1924 = 22歳：祖父が死去。東京帝大独文科に入学。

治安維持法・1925 = 23歳：中平解らと同人誌{裸像}を出す。林房雄らを通して新人会に入会。

円本時代始・1926 = 24歳：窪川、堀辰雄らと{驢馬}を刊行。マルクス主義文芸研究会(マル芸)結成としだいに左傾を深める。これらの同人誌に書いた詩がのちの「中野重治詩集」の中心である。日本プロレタリア芸術連盟(プロ芸)にマル芸の全員が参加し、彼は中央委員に選ばれる。

金融恐慌・・・1927 = 25歳：東大卒業。福本イズムに影響された中野らのラディカリズムが原因で、プロ芸が分裂。

共産党事件・1928 = 26歳：うち共産党支持派はプロ芸と合体して全日本無産者芸術連盟(ナッブ)を結成。論議はナッブ内部の中野対蔵原の「芸術大衆化論争」(芸術大衆化論)に持ち越される。中野はプロ芸、ナッブの指導者として、「芸術に政治的価値なんてものはない」など評論を多く書いたほか、「春さきの風」などの小説を書いている。

世界恐慌・・・1929 = **27歳**：

満州事変・・・1931 = 29歳：共産党に入党。

五一五事件・1932 = 30歳：日本プロレタリア文化連盟(コップ)大弾圧で検挙、投獄され、

帝人疑獄事件1934 = 32歳：執行猶予の判決で出所。以後敗戦までの彼の文学的戦いは、「転向」した自己を見据え、戦争につれて流されて行く現実の中で、「動かないもの」と人間精神とのかわりを追究することになった。

芥川直木賞始1935 = 33歳：中野重治詩集。こつした緊張の所産が「村の家」、

日中戦争始・1937 = 35歳：「汽車の缶焚き」、

健保+総動員 1938 = **36歳**：

第二次大戦始1939 = 37歳：「歌のわかれ」「空想家とシナリオ」、

日米開戦・・・1941 = 38歳：

・・・1942 = 40歳：「斎藤茂吉ノオト」であった。

敗戦・・・1945 = 43歳：敗戦後間もなく共産党に再入党。新日本文学会を創設して中心的な働き手となる。

「朝鮮の細菌戦について」をはじめとする多くの透徹した評論、

新憲法施行・1947 = **45歳**：「五勺の酒」などの現実を鋭くえぐった短編。この年から3年間参議院議員として活躍。

朝鮮戦争始・1950 = 48歳：母が死去。共産党の「50年分裂」の際は「国際派」の側にあり、政治主義に対して文学運動を守り抜く。以後様々な党内問題。

独立回復・・・1951 = 49歳：

自衛隊発足・1954 = 52歳：「むらぎも」で毎日出版文化賞。

国連加盟・・・1956 = **54歳**：

なべ底不況・1957 = 55歳：「梨の花」連載開始。中国作家協会の招きで訪中。

イスタラマ・1958 = 56歳：共産党中央委員に選出される。

美智子妃・・・1959 = 57歳：「中野重治全集」刊行開始。ソヴィエト作家同盟の招きで訪ソ。

安保闘争・・・1960 = 58歳：前年刊行の「梨の花」で読売文学賞。

東京初光'ツク 1964 = 62歳：党運営の官僚化を批判して除名され、共産党批判の文書を続けて発表。

大学紛争始・1965 = **63歳**：党内問題を扱った「甲乙丙丁」の連載開始。

全共闘ビーク・1969 = 67歳：「甲乙丙丁」は豊かな長編世界として完成した(野間文芸賞)。

石油ショック1973 = 71歳：

角栄金脈辞任1974 = **72歳**：

田中角栄逮捕1976 = 74歳：「中野重治全集」刊行開始。朝日賞受賞。

革新大敗北・1979 = 77歳：没した。